

2023年10月13日

タイにおけるSDGs活動の現状調査（タマサート大学との学生SDGs共同研究）

経済学部 佐土井有里

本研究は東南アジアでも発展の著しいタイにおいて、SDGs活動が、一般社会、企業、大学や学生の間において行われているのか、またその意識付けについて考える事を目的として実施した。そのために、タイのタマサート大学経済学部学生と研究交流会を開催し、タイと日本の学生達が討議する機会を設けた。本レポートでは、その準備段階、現地での研究交流会、発表テーマ、学生たちの学びについて報告する。

まず、準備段階として、佐土井ゼミでは4月~5月に学生達がSDGsの日本の自治体や企業での考えや取り組みについて学び、その後6チームに分かれ、各グループが自ら取り組むSDGsのアイデアを練り、プレゼンテーションを6月中に作り上げた。SDGs案を作り上げる過程では、ゼミのOB（地方自治体、企業関係者たち）に逐次社会人の視点からのアドバイスを受けながら、SDGs案を6件作り上げた。

その発表の場として、7月5日(水)15:00~18:00に企業向けSDGs発表会を開催し<sup>1</sup>、約30社の企業担当者に対し、6テーマを発表し、企業からの質疑応答に対応した。企業の方々から具体的なアドバイスやご指摘を多くいただき、更に社会人の目からSDGsに取り組む姿勢や目的を考える有意義な機会となった。

次に、8月7日(月)のタイタマサート大学でのSDGs発表に向けて、英語版の作成と英語プレゼン練習のため愛知県美浜町にて7月7日(金)~8日(土)1泊2日の国内合宿で徹底準備して取り組んだ。

タイ合宿は、8月4日~8日までタイバンコクに滞在し、8月7日にタイタマサート大学経済学部を訪問し、1日経済学部の教員や学生達とのSDGs発表討論会とその後の交流会に臨んだ。タマサート大学はタイのトップレベルの大学で、学生たちの意識も高く、当日は経済学部の大学院生、学部生約25名と教員やスタッフ約10名の参加者での会となった。

まず、タマサート大学経済学部 Prof. Dr. Peera Charoenporn と佐土井による両校からの挨拶や趣旨説明ののち、5本のSDGs案を学生27名が発表した。

---

<sup>1</sup> 7月5日企業向けSDGs発表会案内HP (<https://sadoi5.wixsite.com/sdgs>)

5つのSDGs発表の概要を以下に要約する。

#### 1. 「TOKOFES」(坪井・野村・細井・上田・仲川)

愛知県常滑市のりんくうビーチは日本で一番汚い海だというデータを示し、その状況を解決するための常滑映画祭を開くことを提案し、そこでの出店には規格外野菜の利用やゴミステーションの設置を徹底しSDGsに配慮した上で地域活性化を目指す。

#### 2. 「More! White Part-time Job!」(竹田・清水・中村・松野・小栗)

日本の学生の96%はアルバイトを経験しており、そのなかでも少なくない学生がいわゆるブラックバイトやそれに近いものに困っている。その原因は自分がアルバイトに求めるものと実際に働いている環境にギャップがあるからだと考え、内部の実情が知れる口コミ付きの学生主体の求人サイトを作り、長期的な労働環境の改善を目指し働く学生を助けるという提案。

#### 3. 「Seto→out ~Promotion of traditional industry~」(袴田・畠山・山野・吉田・岩佐)

日本の伝統産業は後継者不足に悩まされており、愛知県瀬戸市の伝統産業である「せともの」もそのひとつである。この問題を最も身近な瀬戸市を糸口に解決を目指す。顧客のニーズに合わせて体験できる短期型・長期型の2コースを提供し、空港で実施することで海外からの顧客も取り込めるのではという提案。

#### 4. 「Visualization of food」(類沢・伊藤・長井・立木・森・加藤)

日本を訪れる外国人は年々増加しているが、彼らは日常生活における習慣の違いに苦労している。特に食事は毎日必要なものにもかかわらずアレルギー表示や宗教上禁止されているものが入っていないかが日本語表示では読めなく、理解できない場合が多い。安心して日本で食事ができるように、食品でアレルギーやハラールが分かるイラスト表示などの食品の見える化を行う。

#### 5. 「Dragons loss market」(高沼・文谷・本木・後藤・朝日)

世界で問題になっている食品ロス問題の解決は日本でも行われているが、知名度が低く小規模なものが多い現状である。そこで地元の有名なスポーツチームを巻き込んだ解決策を提案する。名古屋市とドラゴンズの例だと、農家がJAなごやに規格外野菜などを届け、JAなごやで回収したものを球団が回収し、それを球場内で販売したり選手に協力してもらい観客に渡し事ができる。「ドラゴンズロス市」名付け、これが全国に広める事が出来ないかという提案。

タマサート大学の学生や教授から多くの質問を受け、討議した。タイとの相違点や共通点といった観点からの質問が多く、例えば2つめの「More! White Part-time Job!」はタイではアルバイトをしている学生がほとんどいないので日本の学生が週に何時間働いているか質問された。日本では学生が週に約30時間ほど働いていると答えると非常に驚かれ、タイでは大学生はアルバイトをせず、親の支援で勉強に集中するとの答えに驚いた。その後アルバイトに対し時間の無駄と考えているタイの大学生に対し、日本の学生達はアルバイトで得る金銭以外のメリットや重要性を強調し、有意義な討議となった。3つめの「Seto→out~Promotion of traditional industry~」ではタイでも長期的な体験コースのようなものを実施しているらしく伝統技術継承の重要性や問題等共通点や共感を得ることができた。タマサート大学の学生は意欲的な学生が多く学生達は非常に強い刺激を受け、また、タイで自分たちの考えたSDGsについての提案策を英語で発表するという貴重な機会を持つことで非常に良い経験になった。

全体を通して、今回の研修はタイの経済発展を直接体感し、タマサート大学経済学部の学生と直接討議・交流することにより、多様性を知り、チャレンジ精神を養い、また、緊張感をもって楽しみ、異文化や発展するタイのエネルギーを体感することができたと感じる。この研究活動は、異なる文化間でのSDGs活動の共有と協力を奨励し、持続可能な開発目標の達成に向けた取り組みを推進するために非常に有益であったと言える。



#### 開催概要

企画名	名城大学生によるSDGs研究発表会
日時	2023年7月5日(水) 15:00~18:00
会場	名城大学天白キャンパス 共通講義棟北 N105
交通	名古屋市営地下鉄 鶴舞線「塩釜口」駅下車 1番出口(右)徒歩約4分
参加料	無料
主催	名城大学【経済学部 佐土井ゼミ / Next One PJ (名城大学OB・OG有志団体)】





